

講義名	英語で学ぶグローバルコミュニケーション		
科目区分	グローバル		
担当教員	中川 典子		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限	授業形態	
	2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース/2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース/2019年度 人間社会学部 人間健康学科/2019年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース/2019年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース/2019年度 人間社会学部 観光学科/		
履修開始年次	2年生	単位数	2
備考			

主題と概要

今日の社会では、英語を使用し、グローバルな視点で物事を考えることが益々、重要視されている。本コースはこのような現状に対応するため、異文化を理解し、異文化に対して寛容な態度をもち、世界に通用する基本的な英語力をもったグローバル人材を育成することを目的とする。授業ではテキストによる演習と異文化コミュニケーショントレーニングで使われる手法を用いた様々なエクササイズを実践することにより、異文化コミュニケーション能力の育成を目指す。

到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを目標とする。

(1) 課題解決型のスキットを通じて、英語力だけでなく、グローバル人材に求められるコミュニケーションスキルや課題解決力を身につけることができる。
(2) 英語母語話者だけでなく、ノンネイティブ(英語母語話者以外)の人々の生の英語に触れることで、実際のグローバルな英語環境に精通することができる。
(3) クラスメートとのペアワークにより、様々な場面における実践的な英語力を習得できる。
(4) 基本文法やイディオムを演習活動を習得できる。

提出課題

基本文法やイディオムに関する演習問題、テキストの内容に沿った会話文の作成、その他、授業で配布するテキストの内容に準拠して担当者が作成したワークシートに取り組む等、さまざまな課題を提出する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

小テスト(英文法やイディオム、テキストの各ユニットの復習クイズ)を実施し、理解が難しいと思われる設問について解説する。受講生が提出したワークシートの英語表現を添削指導し、助言する。

評価の基準

- (1) 小テスト (30%)
- (2) 課題 (30%)
- (3) 定期試験 (30%)
- (4) 授業態度 (10%)

履修にあたっての注意・助言他

- (1) コースの評価は、上記の成績評価基準すべての項目を総合して行うが、(1) (2) (3)のうち一つでも不参加の項目がある場合は不合格となり、単位は取得できない。
- (2) 講師が入室したときに教室にいない場合は遅刻者と見なす。交通機関の延着など、特別な理由がない限り遅刻厳禁。
- (3) 規定の時間以上の遅刻は欠席となる。また、規定回数以上の欠席の場合、単位は取得できないので、各自、自分の状況を把握しておくこと。詳細は第1回目のガイダンスで説明。
- *第1回目の授業は授業内容やコース内で遵守すべきルールに関するガイダンス、その他、履修にあたっての重要な注意事項を伝えるため、必ず出席すること。

教科書	.Must-Have English Skills for Global Communication.	Shinichi Shibata, Rie Jindo, Lindsay Kinseido	¥1,900	978-4-7647-4059-4

プリント資料及び参考文献

各ユニットの内容に沿ったワークシートやグループワーク用の教材を授業中に配布する。

授業計画

授業回数	授業内容
1	ガイダンスとペアワーク
2	May I help you? (困っている人に話しかける) (1)
3	May I help you? (困っている人に話しかける) (2)
4	What do you do on the weekend? (初対面の人と会話を続ける) (1), Quiz 1
5	What do you do on the weekend? (初対面の人と会話を続ける) (2), Quiz 2
6	That sounds interesting! (ポジティブ・ネガティブな意見を述べる) (1), Quiz 3
7	That sounds interesting! (ポジティブ・ネガティブな意見を述べる) (2), Quiz 4
8	I'm not feeling well. (体調を伝える) (1), Quiz 5
9	I'm not feeling well. (体調を伝える) (2), Quiz 6
10	You shouldn't step there (注意する) (1), Quiz 7
11	You shouldn't step there (注意する) (2), Quiz 8
12	Why don't we buy potatoes, too? (提案する) (1), Quiz 9
13	Why don't we buy potatoes, too? (提案する) (2), Quiz 10
14	Would 5 pm be convenient for you? (スケジュールを調整する) (1), Quiz 11
15	Would 5 pm be convenient for you? (スケジュールを調整する) (2), Quiz 12

*授業内容は毎回の進捗状況により、次回に持ち越すことがある。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

	ア：PBL(課題解決型学習)
<input type="radio"/>	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/>	ウ：ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	エ：グループワーク
<input type="radio"/>	オ：プレゼンテーション
<input type="radio"/>	カ：実習、フィールドワーク

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：英文法やイディオムの課題やテキストのワークシートに取り組み、リーディングセクションの単語検索、次回のクイズの準備(2時間)
復習：その日に学習した内容の復習(ワークシートの添削箇所を確認、テキスト内容のリスニング、会話文やリーディングセクションの音読を含む)(2時間)

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向の授業の実施：演習活動の際に各受講生を指名し、解答をさせ、フィードバックや解説を行う。ペアワークの発表の後にパフォーマンスに対して助言、指導をする。

実務経験の有無及び活用

備考

テキストを持参せずに受講した場合は単位は認定されない(コピー持参は不可)。第1回目の授業までにテキストを購入すること。受講生の真摯、かつ、積極的な参加を希望する。第1回目の授業で履修に関する重要な説明をするので、必ず出席すること。